

ロータリー財団NEWS

R I 第 2750 地区の皆様へロータリー財団に関する情報をお届けします。

CONTENTS 「ロータリー財団鈴木委員長からのメッセージ」「ロータリー財団各小委員会からの報告（補助金委員会、寄付増進委員会、奨学・GSE・学友委員会、ロータリー平和フェロシップ委員会、ポリオ・プラス委員会）」「TOPICS」「編集後記」

2011-12 年度 VOL. 2

発行日：2011年11月7日

発行者：ロータリー財団委員会

副委員長 高橋 茂樹

ロータリー財団鈴木委員長からのメッセージ

ロータリー財団月間

国際ロータリー第 2750 地区
ロータリー財団委員長 鈴木 義明



11 月は「ロータリー財団月間」です。「世界でよいことをしよう」を標語に 1917 年ロータリー財団は米国イリノイ州に誕生致しました。ロータリー財団は、この 94 年間ロータリアンの皆様の温かい善意と行動で多くの平和を勝ち取ってきました。しかし、まだまだ、この平和を求める人々は多く、ロータリアン皆様の善意である「寄付」を求める事をやめる事は出来ません。

さて、本年度は、私たちが想像も出来なかった大変不幸な災害である、地震・津波が「東日本大震災」を襲いました。此の災害に国際ロータリーのロータリー財団は「ロータリー日本・太平洋諸島地震災害復興基金」を設立し、世界中のロータリアンへ基金の参加を呼びかけました、その結果 4,072,252 ドルの大変多くの温かい善意の基金が集まりました。

そして、2011 年 7 月 1 日に「国際ロータリーのロータリー財団」は「もっと災害を身近で支援しよう」と言う事で、ロータリー財団管理委員会は、「小沢一彦」ロータリー管理委員を代表として「ロータリー日本・太平洋諸島地震災害復興基金の機能と基金 US \$ 2,211,934.53 と共に「東日本震災復興基金 日本委員会」と名称を変更し直接日本で日本人の管理委員の基、全国ロータリークラブの皆様とロータリー財団と一緒に、熱い心を東北震災支援へ届けるプロジェクトを開始致しました。

現在当地区も数多くのクラブの皆様が自クラブの支援プロジェクトへの補助金申請を提出し多くの成果を震災地へ届けております。これらのプロジェクトが出来るのも皆様ロータリアン、お一人お一人の寄付の成果です。

最後に、クラブ会員の皆様にお願いが有ります、「寄付をするという事は、世界中の奉仕活動に参加しているということです」ロータリアン一人一人からの寄付は、世界中で有効に使われています。ロータリー財団は、他の奉仕団体と異なり、全ての寄付を奉仕活動に使われています。

そして、貴重な寄付を使って、いろいろなプロジェクトを実行していくのは皆さんロータリアンであり、皆さんの所属するロータリークラブです。是非、有意義なプロジェクトをお考えいただき、「寄付をする」だけでなく「有効に使う」ことも考えてください。

会員の皆様本年度の地区重点目標年次寄付一人 100 ドル以上・ポリオプラス指定寄付1クラブ
1,000 ドル以上・ベネファクター（恒久基金への寄付）・大口寄付等への参加を是非お願い申し上げます。

ロータリー財団委員会各小委員会からの報告

■補助金委員会



委員長 安保 満

「被災地復興支援プロジェクトの相談窓口 及び 地区補助金（DSG）とマッチンググラント（MG）の進捗状況」

2011-12年度が始まり早くも4ヶ月が経過しました。各クラブにおかれましては東日本大震災復興支援を目的とした多くのプロジェクトを計画されていることと思います。ロータリー東日本震災復興基金を利用した被災地支援プロジェクト（日本委員会への申請）及び地区補助金（DSG）を使用した被災地支援プロジェクトをお考えの場合は補助金委員会の各グループ担当者までご相談下さい。

※各グループ担当の補助金委員は下記の通りです。

■千代田グループ、銀座・日本橋グループ

曾我 道治（東京西）、百田 晶子（東京武蔵国分寺）

■京浜グループ

石井 弘（東京品川中央）

■山の手東グループ・山の手西グループ

西村 弘之（東京世田谷）、鈴木 明彦（東京世田谷南）

■多摩東グループ、多摩中グループ、多摩南グループ

杉山 勲（東京町田）、比留間 章光（東京昭島中央）

■PBG

坂元 吉裕（グアムサンライズ）

■委員長（総括）、副委員長（MG担当）

委員長 安保 満（東京昭島）、副委員長 加藤 書久（東京西南）

地区補助金（DSG）、マッチンググラント（MG）に関しても多数の相談及び申請が御座いました。既に補助金の申請を承認したプロジェクトは下記の通りです。

●DSG申請クラブと補助金支給額

- ①東京昭島RC「東日本大震災被災地の仮設住宅に扇風機、掃除機を寄贈」3,850ドル
- ②東京昭島中央RC「カンボジアの子供たちへ車椅子供与」4,000ドル
- ③東京田園調布緑RC「ミクロネシアへの机・椅子の寄贈」4,000ドル
- ④東京八王子北RC「石巻市へ福祉用具寄贈」4,000ドル
- ⑤東京品川RC「ぶりすくーる西五反田に保育用備品の寄贈」3,210ドル

⑥東京世田谷RC「自立援助ホーム憩の家 生活環境改善プロジェクト」2,960ドル

⑦東京日本橋東RC「神田川支流浄化運動」2,420ドル

⑧東京たまがわRC「知的障害者1日バスハイク」2,060ドル

以上8件の申請が本年度の補助金委員会で承認されました。本年度DSGの地区予算は59,358ドルです。残金は32,000ドル以上御座いますが、申請の予定があるクラブはどうぞお早めにグループ担当の補助金委員までご相談下さい。

●MG申請クラブと地区DDF承認及びTRF進捗状況

①東京南RC（地区内12クラブとの合同プロジェクト、カンボジアプノンペンRCとのMG）
地区DDF 8,250ドル「カンボジア教師育成支援プロジェクト」 TRF承認済

②東京世田谷RC（タイサラブリRCとのMG）

地区DDF 4,700ドル「病院医療機器寄贈プロジェクト」 TRF承認済

以上2件が本年度MGの地区DDFを申請したプロジェクトです。MGのための地区DDF予算額は50,000ドルです。申請の予定があるクラブは、どうぞお早めにMG担当の加藤副委員長（東京西南）、または西村委員（東京世田谷）までご相談下さい。

※補助金はTRFより地区に対し振り込まれた後、申請クラブの口座に送金致します。本年度は10月下旬から11月上旬頃になる予定です。 以上



■寄付増進委員会



委員長 根岸 浩秀

ロータリー財団への寄付増進のお願い

11月はロータリー財団月間です。

1916年（大正5年）第6代RI会長アーチ・クランプは、すべてのロータリアンが参加できる世界的な規模の「教育への貢献、そして社会奉仕の分野で役立つ為の、ロータリー基金」を作ろうと、1917年アトランタ国際大会で「ロータリー基金」創立の提案を行いました。

RIのロータリー財団は、それを具体化したもので、全世界のロータリアン

の善意と熱意で毎年順調に発展し、各種補助金を国際理解と世界平和の為に提供しています。そしてロータリー財団管理委員会によってその細則のもとに運営されております。

財団の主なプログラムは、各種奨学事業、研究グループ交換（GSE）、同額補助金、発展途上国で奉仕する大学教員のための補助金、3Hプログラム、ロータリーボランティア補助金、ポリオ・プラス、特別補助金等々であります。

片倉ガバナーは、それらのプログラムを支援するために、地区の重点目標として次の通り掲げられました。

年次寄付 1人 100ドル以上

ベネファクター (恒久基金への寄付が1,000ドルに達する者)

会員100名以上のクラブ 2人以上

会員99名以下のクラブ 1名以上

大口寄付者 (ロータリー財団への寄付累計が10,000ドルに達する者)

地区で5名以上

ポリオ・プラス指定寄付 1クラブ 1,000ドル以上

一般寄付は、通常クラブを通じてポールハリスフェローの対象になるものや、クラブとして財団へ寄付するものを言います。これは地区の一般寄付をロータリー年度末に集計し地区財団活動資金50%と、国際活動資金50%の二つに分けられ、3年後に使われます。

財団基金として寄付する場合は一般寄付とは言いませんが1,000ドル以上の場合はベネファクターになれます。

用途指定寄付は、ポリオプラス基金、国際親善奨学金、研究グループ交換等に対する寄付で金額は問いません。

三年後の財団活動資金のために、また恒久基金積み上げの為に協力賜われますようお願い申し上げます。

■奨学・GSE・学友委員会



委員長 鈴木 剛

指定教育機関が決まる

●指定教育機関が決まりました。

2012-2013年度に派遣されるロータリー財団国際親善奨学生（以下国際親善奨学生という）の申請書締め切りは10月1日でしたが当地区は9月9日に財団本部へ申請いたしました。本年度から申請書を国際ロータリー日本事務局に申請するのではなく、直接国際ロータリーのホームページにアクセス

し申請を行う方式に変更となりましたので、日本事務局の書類チェックを受けることが出来ないため書類不備で返却されるのではないかと心配しましたが、何の指摘もなく受理されほっといたしました。本部では申請書を受理すると直ちに教育機関の指定を行います。ボストン、ニューヨーク、ロンドン等人気の高い都市への出願は多いために、指定時期が遅くなることがあります

が、幸いにも今回の申請で候補生は遅い人でも 10 月 10 日に指定とかなり早い段階で教育機関を、しかも大多数の候補生が最も学びたいと希望している機関に指定されました。候補生は正式の国際親善奨学生となり、これから指定校に合格しなかった場合の代替教育機関の申請、留学期間の資金計画等書類提出を行いながら受験準備を進めていくこととなります。全員が希望する研究機関に合格することを期待しております。

●オリエンテーションを開催しました。

国際親善奨学金制度は「国際親善」と冠がついているように派遣する地域および受入先の地域においてその国の状況等を理解し、交流を深めることが大切な要素となっております。また、当然ながらロータリーの活動について良く知っておくことも大切です。オリエンテーションは奨学生にそのような様々なことに関して情報を提供し、理解させる重要なプログラムで、奨学生が一回も参加しなかった場合は、資格が取消となることもあります。当地区では 10 月 14 日（金）に奨学生およびカウンセラーにお集まりをいただき開催いたしました。当日は多忙中にもかかわらず片倉ガバナーも参加され、心温かい激励とアドバイスを頂きました。そのあと、派遣までのスケジュールの説明、8 月に帰国した 2010-2011 年度派遣生の神宮司真奈さん（東京狛江 RC 派遣先スイス）の受験準備から派遣中の注意点等の体験談があり、情報収集の場である懇親会においては 2012-2013 年度派遣生である宮岡緑さんの素晴らしいピアノ演奏もあり無事終了いたしました。



■ロータリー平和フェロシップ委員会



委員長 萩原 道雄

ロータリー平和フェロシップ委員会の活動

●9 月 10 日にロータリー平和フェロー・オリエンテーションと歓迎会を開催

ロータリー平和フェロー第 10 期生を迎え、坂本コーディネーター、森本ロータリー平和センター所長（国際基督教大学教授）、近藤雅臣 IR 理事に挨拶を頂いた後、ロータリー平和センター・ホストエリア・中村コーディネーター補佐がフェローの日本における学業・生活の心得を説明しました。質疑応答の後、ロータリー平和フェロー第 9 期生 Mark Flanigan さんが自身の経験談を語り、また東関東大震災にも触れ、日本人の思いやりや我慢強さについて話し、宮沢賢治の「雨にも負けず」の詩で締めくくりました。その後、歓迎・懇親会を開催、大いに盛り上がり、山崎コーディネーター補佐が恒例の三本締めで中締めを行い、賑やかに会を終えました。

●世界の平和と紛争解決に貢献する人材を養成するロータリー平和フェロシップ・プログラムの日本のロータリー平和センターは国際基督教大学（修士課程・2 年間）にあります。9 月に入学したロータリー平和フェローは次の方々です。

フェロー	性別	出身国
Hamadou, Adamou	M	Niger
Jarusruangchai, Jarunee	F	Thailand
Kwesell, Allison	F	USA
Lin, Chia-Yin	F	Taiwan
Lindostrom, Christopher	M	USA
Morell, Maria Celeste	F	Argentine
Niemack, Auriel	F	South Africa
Stevenson, Taylor	F	USA
Toupin-Laforge, Melissa	F	Canada

●9月25日に三鷹国際交流フェスティバルが開催され、ロータリー平和フェローも参加

三鷹国際交流フェスティバルは、毎年井の頭公園で開催され、世界の国々の出店と盛りだくさんのイベントで毎年4万人が集まる大イベントです。三鷹ロータリークラブがブースを出店し会員の宮崎ロータリー平和フェローシップ副委員長のリードでドラムセクションを開催、人々を楽しませました。第9期生、10期生のロータリー平和フェローも数多く参加し、ドラムをたたき、世界の出し物を楽しみました。またブースではロータリー平和フェローシップ・プログラムの展示を行いました。世界の名をつけた日本のお祭りですので、ロータリー平和フェローにとって日本の今の文化に触れる良い機会となりました。

■ポリオ・プラス委員会



委員長 清原 元輔

ポリオ撲滅まであと一歩

2010-11年度においては2750地区内各クラブから総額\$92,113のご寄付をポリオ撲滅のために頂きました事を感謝申し上げます。

ありがとうございました。残念なことですが91クラブ中27クラブがこの1年間においてポリオ寄付がゼロでした。このポリオ寄付は、財団の中で用途指定寄付に当たりポリオ撲滅のために使われますので、ご送金の場合は、ポリオ寄付である事の明示が必要になります。どうぞこの点をご留意頂きますようお願い申し上げます。また、ポリオ撲滅のための個人寄付は、ポールハリスフェローの寄付としての認証を受けることができます。加えるに、2011年4月よりポリオ寄付も税法上の寄付として免税対象になりました。

再度のご案内で恐縮ですが、ポリオ（脊髄性小児まひ）は、ポリオウイルスによる伝染病です。主に5歳未満の幼児がこの病に冒されます。

ポリオは身体を麻痺させ、ウイルスが脳幹に入れば運動ニューロンを侵し、呼吸困難や死亡に至るケースさえあります。

ポリオ感染後の後遺症による麻痺障害を治療で治すことはほとんど不可能です。

最善の対策は、予防です。@60セント（約¥48）のワクチンで一人の子供をこの疾病から一生守ることが出来るのです。各クラブ1000ドルのご寄付を頂ければ、効果は絶大で1クラブで1600

人の子供達を守れます。

ポリオ撲滅がなされなければ、今後40年間で約1000万人以上の子供たちがこの小児麻痺を患うことになるかと推測されています。

国際ロータリーは、ポリオ撲滅に1985年から取り組んでおり、あと一步のところに来ています。国際ロータリー (RI) は、世界保健機構 (WHO)、米国疫病対策センター (CDC)、国連児童基金 (ユニセフ UNICEF) の3機関と協力しポリオ撲滅運動を推進しています。現在99%まで撲滅し残り1%を撲滅するために頑張っています。ポリオ撲滅2億ドル チャレンジもあと1歩です。2011年6月30日現在で寄付が1億9000万ドルになりました。

RI 2750 地区では、2011年9月末現在総額\$552,418の寄付を行いました。2011年10月24日の世界ポリオデーにはイベントが東京でも開催されました。片倉年度においては、現在16クラブの皆さんから寄付を頂きました。残り75クラブの皆様からの寄付をお待ちしております。世界中の子供たちの安全・安心のために皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願いします。

TOPICS

■東日本震災復興基金と義援金の関係は？

全世界のクラブからロータリー財団の東日本震災復興基金にお振込みいただきました金額は、本年6月末まではロータリー財団本部で、各地からの補助金申請に対応していましたが、申請から補助金が振り込まれるまでに時間を要すること、通常のマッチング・グラントのように海外のクラブと災害地のクラブを組み込まなければならないこと等の問題が指摘されていました。そこで、日本から選出されている小沢一彦管理委員が、この東日本震災復興基金に関しては、全面的に日本で管理・運営をしていくことを提案され、7月1日よりその管理・運営は新たに設置された「日本委員会」にゆだねられました。

ここでちょっと気になるのが、義捐金との関係です。皆様のクラブでお出しいただいた義捐金は、そもそもは地区を通じてガバナー会に送られたもので、ロータリー財団とは全く関係がありませんでした。この義捐金として出されたお金が、ガバナー会より地区に戻ってきました。私たちの地区では、この一部を活用して東日本震災復興基金の申請の際に、希望する補助金額が十分に出なかった場合、地区復興支援委員会の承認を経て、資金の不足分を補うために使うこととなりました。

ここで初めてロータリー財団と義援金の関係が新しく発生したわけです。

編集後記

地区独自でこのようなロータリー財団 NEWS を発行しているのは、どうやら他には無いようです。私たちは、ロータリアンの皆様に、皆様からいただいた寄付金が、どのように有効に使われているのかを、お伝えし、皆様にロータリー財団への関心を深めていただくとともに、更なるご寄付を頂戴できればと願っております。今月(11月)には、ロータリー財団を分かりやすく解説したパワーポイントによる資料を収録したCDも配布させていただいています。その他にもRI(国際ロータリー)やTRF(ロータリー財団)、そして地区からもいろいろな情報や報告が発信されていますので、是非、ご覧いただければと思います。